



## 黒田先生送別の辞

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山野, 則子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/12494">http://hdl.handle.net/10466/12494</a>

## 黒田研二先生 送別の辞

人間社会学部 社会福祉学科主任／人間社会学研究科 社会福祉専攻主任

山 野 則 子

平成23年3月をもって退職された黒田研二教授に、僭越ながら送別の辞を述べさせていただきます。

黒田先生は、昭和50年3月に大阪大学医学部を卒業。5年間の精神神経科医師、内科医師としての臨床経験を経て、大阪大学医学部において、公衆衛生学の道に進まれた。同大学医学部公衆衛生学講座において、昭和57年8月から平成7年3月まで約13年間教員（助手、講師、助教授）を務められ、平成7年4月より、大阪府立大学社会福祉学部の教授に就任された。平成15年8月からは同学部の学部長を務め、同大学が平成17年4月、公立大学法人大阪府立大学に再編されたが、新たに開設された人間社会学部の教授、学部長に就任された。学部長を平成21年3月まで合計4期5年7ヶ月間務められ、平成23年3月をもって退職された。

組織改編のたいへんな時期に学部長の任務を全うされ、前身の大阪社会福祉事業短期大学から社会福祉学部創生期を生きてこられた3人の先生方に送別の辞を述べてこられたのも、黒田先生である。激動の時代を乗り越えながら、社会福祉学部創生期の先生方を送り出す黒田先生の思いは、どのようなものであったらうか、今更ながら考えさせられる。創生期の諸先輩方の思いを受け止めながら、荒波のなか、今ここにある社会福祉学科を形作ってこられた。

黒田先生は、大阪府立大学の社会福祉の歴史～日本社会事業短期大学（現、日本社会事業大学）、中部社会事業短期大学（現、日本福祉大学）と並んで社会福祉学界を牽引してきた伝統と実績～をよく語られた。その力強く語られる背景には、諸先輩方から引き継がれた責任と熱い思いとともに歩いている意識がおりあったのかもしれない。颯爽と歩かれる先生のお姿は、まさに荒波にもぐらつかない強さを標榜しているようだった。反面、学生が大好き、野外活動が大好きで、いつも学生主体の新入生歓迎合宿に出向かれていた、その軽やかなお姿もまた黒田先生である。学部学生や院生に人気の高い先生であった。

いずれにしても、大阪府立大学の社会福祉にとってかけがいのない黒田先生には、今後も名誉教授として、見届けていただけるようお願い申し上げます。

\* \* \*

黒田先生の研究業績は多岐にわたるが、とくに平成12年以降の業績をみると（1）高齢者の保健福祉に関する研究、（2）精神医療と精神障害者福祉に関する研究、（3）ホームレス者の健康問題や支援方策など地域保健福祉に関する研究等の領域で、活発に研究論文や著書を刊行されている。

学生教育においては、「医学概論」「老人福祉論」を主に担当され、学部生の卒業論文指導はもちろんであるが、数多くの大学院博士前期課程、後期課程学生の指導に力を注がれ、これまでに指導教官として14名の博士号取得者を生みだされた。

また、黒田先生は、日本社会福祉学会（学会誌査読委員）日本老年社会科学会（理事）日本公衆衛生学会 日本精神神経学会（保健医療福祉システム委員会委員）日本地域福祉学会 日本行動医学会（評議員）日本疫学会（評議員）日本衛生学会 日本社会医学会（理事）日本難病看護学会（学会誌査読委員）日本在宅ケア学会（理事）日本認知症ケア学会（評議員）と数々の学会活動に積極的に貢献されている。

また、社会的活動では、大阪府福祉基金事業検討委員会委員、大阪府医師会介護・高齢者社会福祉委員会副委員長、大阪府精神保健福祉審議会委員、箕面市保健医療福祉総合審議会会長、西宮市障害福祉推進計画策定委員会委員、大阪府社会福祉協議会運営適正化委員会委員長、茨木市保健福祉計画等推進懇談会会長など、数々の要職を務められ、多大な貢献をされている。

これらの活動からも見てとれるが、研究においては、福祉現場の実践に結びついた研究を推進しておられた。特徴的な研究として、黒田先生が委員（部会長）を務めた大阪府精神保健福祉審議会において答申や意見具申が取りまとめられる経過、それらをもとに精神医療オンブズマン制度、精神病院からの地域移行支援事業などの施策が立ち上がる経緯の分析がある。これも、府レベルでの政策形成という実践課題に結びついた研究といえよう。

\* \* \*

学生を常に大切に思い、強い信念を持って大阪府立大学の社会福祉のために、ときには厳しく、ときには優しく、私たちの先輩として導いてくださった黒田先生に心よりお礼を申し上げます。そして、平成24年度から大阪府立大学が、また新しく生まれ変わる。黒田先生や諸先生方が乗り越えてこられた山々を私たちがどのように歩いて行くのか、見守っていただきたい。創生期の先生方から見れば、新しい教員がほとんどとなり、頼りなく見えるかもしれない。しかし、未熟ながらも時代の流れのなかで、常に学生との対話を大切にし、特に公立大学の役割として実践の科学化に取り組み続け、高度な研究と教育を今の時代に発展させていく所存である。それは、伝統を大切にしながらも、常に新たに生まれ変わり、進化し続ける足跡を残していく、大きな責任を担うことを指す。私たちは、気を引き締めて自覚しなければならない。

平成23年10月22日